

日本原子力学会 第 112 回倫理委員会
議事録

1. 日 時：2019 年 6 月 17 日（月）13:30～17:15
2. 場 所：日本原子力学会事務局会議室
3. 出席者：大場委員長、三村副委員長、神谷幹事、伊藤委員、金山委員、菅原委員、中野委員、中村委員、福家委員、藤澤委員（委員 13 名中 10 名出席）
土田特別委員、オブザーバー 北村氏、足立氏、手柴氏
4. 資 料：
 - 倫 112-1 日本原子力学会 第 111 回倫理委員会 議事録(案)
 - 倫 112-2 委員の退任、新委員候補等について
 - 倫 112-3-1 倫理委員会活動計画
 - 倫 112-3-2 倫理委員会役割分担表
 - 倫 112-4 2019 年秋の大会 倫理委員会セッション
 - 倫 112-5 2019 年春の年会企画セッション アンケートへの対応案
 - 倫 112-6-1 18 年春の年会倫理委員会セッション講演録
 - 倫 112-6-2 倫理研究会議論内容案
 - 倫 112-7 (欠番)
 - 倫 112-8 「研究機関の安全文化」の議論の進め方について(2)
 - 倫 112-9 次回倫理規程改定に向けた検討について

5. 議事概要：

(1) 前回議事録の確認

神谷幹事から資料 112-1 に基づき前回議事録（案）について説明があった。以下の修正をし、メールベースで確認をした後、了承することとした。

- ・ 2 頁上から 17 行目は、「…回答案を委員長が作成することとする」と修正する。
- ・ 2 頁上から 22 行目は、「…基本だが、その本質が理解されていないので…」と修正する。
- ・ 3 頁下から 9 行目は、改定検討は今後とも継続していくことが分かる文言を追記する。

(2) 委員の退任、新委員候補等について

大場委員長から資料 112-2 に基づき、三村副委員長と原田委員が今回の委員会で退任することが報告された。金山委員についても今回の委員会で退任するとの申し出があった。

また、足立氏（日本原燃）と手柴氏（日立 GE ニュークリア・エナジー）から委員への立候補届の提出があったことが報告され、両名の立候補理由について神谷幹事から説明があった。両名自身からも立候補の所信表明があり、その後、出席委員の満場一致で両名の委員就任を委員会として承認した。次回学会理事会は 7 月 23 日の予定であり、足立氏と手柴氏の委員就任の了承を上申することとした。

大場委員長から、三村副委員長の後継の副委員長として福家委員を指名するとの説明があった。

藤澤委員から、学会理事の交代に伴う倫理委員会特別委員等について説明があり、委員として土田理事（関西大学、これまで倫理委員会特別委員）と高木理事（関西電力）が就任し、特別委員は藤澤副会長（中部電力、これまで倫理委員会委員）と宇笠理事（福井大学、学会教育委員会委員長）の2名が就任し、中島特別委員、高橋特別委員、布目特別委員、深田特別委員は退任するとの説明があった。

(3) 倫理委員会の活動計画について

三村副委員長から資料 112-3-1 及び 112-3-2 に基づき説明があり、以下を確認した。

- ・技術倫理協議会のシンポジウムは 12 月 9 日に開催。
- ・本年秋の大会企画セッションは、伊藤委員と大場委員長が副担当の体制とする。
- ・本年の倫理研究会は、福家委員を主担当とし、出町委員と神谷幹事が副担当の体制とする。
- ・足立氏と手柴氏の担当は、今後調整する。
- ・倫理委員会の活動計画と役割分担については、今後は福家委員を取り纏めの担当とする。

(4) 2019 年秋の大会企画セッションについて

菅原委員より資料 112-4 に基づき、2019 年秋の大会企画セッションに係る進捗状況について説明があった。

- ・メインの講師として久木田先生（名大）の了解を得ており（演題「技術開発に倫理を組み込むこと：人工知能の事例から」）、菅原委員による趣旨説明（演題「技術と倫理の相互作用」）と、出町委員による事例紹介（演題「保全分野における AI 導入に向けた取組事例」）の後、総合討論という構成となる。座長は大場委員長。
- ・予稿の提出期限は 7 月 25 日で、担当の菅原委員が取り纏めを行い、学会事務局に提出していく。当日の役割分担等について、今後具体化していく。

(5) 2019 年春の年会企画セッション アンケートへの対応について

大場委員長より資料 112-5 に基づき、2019 年春の年会企画セッションで収集したアンケートへの回答案について説明があり、議論を行った。

議論を踏まえた修正案について、再度メールベースでレビューすることとした。

学会の活動はボランティアを基本としていることに関する意見については、藤澤委員より 5 月 31 日開催の学会理事会での議論の状況について紹介があり、当該箇所については藤澤委員が代案を作成することとした。

(6) 今年度倫理研究会について

三村副委員長より資料 112-6-1 に基づき、2019 年春の年会企画セッションでの議論の状況について説明があった。これを踏まえ、資料 112-6-1 に基づき、倫理研究会の内容としては、春の年会のフォローアップを基本とすること、倫理委員会と講演者程度のクローズドの研究会として、倫理規程改定も念頭に議論が発散しないような会を目指すこと等の説明があり、議論を行った。

引き続き検討を進めることとし、秋の大会後の 10～11 月頃の開催としていく。

(7) 研究機関の安全文化の議論の進め方について

伊藤委員より資料 112-8 に基づき説明があり、議論を行った。

今後の進め方について、より具体的な内容とし、アクションを明確化していくよう、担当の伊藤委員と中村委員で検討を進めることとした。

また、原子力機構の職員に安全文化に関するアンケートをして、その結果を踏まえて議論をするやり方もあるとの意見があり、アンケートの案を大場委員長が作成することとした。

(8) 次回倫理規程改定に向けた検討について

神谷幹事より資料 112-9 に基づき、前回委員会で各委員のアクションとした改定論点の抽出、改定案の検討等についての 1 回目の集約状況について説明があった。

次回委員会に向けて、2 回目の各委員による検討を行い、集約をすることとした。その後は、分担を決めて、検討を促進していく。

(9) 日本学術振興会先導的研究開発委員会「未来の原子力技術」への参加形態について

大場委員長より、学術振興会側の諸規程の変更に伴う「未来の原子力技術」への参加形態の変更について説明があった。

従来は、倫理委員会から大場委員長がオブザーバーとして登録し、三村副委員長と中村委員が代理として登録していたが、今後は、大場委員長が委員としての登録となり、代理としての出席は、従来と同様の運用としていくとのこと。

今後、覚書の改定を進めていく。

(10) その他

- ・中野委員から、12 月の技術倫理協議会シンポジウムへの当委員会からの講演候補者の提案については、内容が専門的であったことから採用されなかったとの紹介があった。
- ・土田特別委員（次回から委員）の倫理委員会出席に係る旅費については、倫理委員会予算からの支出とすることを承認した。

6. 次 回：第 113 回 2019 年 8 月 7 日（水）13:30～17:00@原子力機構東京事務所会議室

以上